
福 井 県 医 師 会

だより

第546号 平成18年(2006)12月



表紙写真説明：迫る寒冷前線

東の間の青空が山から押寄せる雪雲に覆われる寸前、偶然のチャンスに撮影。数分後、あたりは吹雪に包まれていました。場所は勝山近郊です。

福井市 丹尾 太

福井県皮膚科医会の歩みと皮膚の日の行事

福井県皮膚科医会会長 青 山 文 代



福井県皮膚科医会は、市内の皮膚科医の親睦会として存在していた相求会という会を母体としています。昭和49年藤田幸雄先生のご提案で福井県皮膚科懇話会と名称が変わり、年3回の症例検討会と年1回の懇親会を行うことで続けられていました。昭和52年に福井県皮膚科医会の名称に改められました。昭和49年から池田眞康先生が世話人をされておられ、56年に会長に就任されておられます。昭和58年に福井医科大学が創設され、昭和60年から福井医大の先生方が参加されるようになりました。当時は3月、5月、9月、11月の第4金曜日、午後7時に県立病院と日赤病院で開催され、2月に新年会を行っていましたが、昭和62年から第4木曜日に変更されました。福井県皮膚科医会の会則は平成11年に承認され、福井県における皮膚科診療の内容の向上と会員相互の親睦をはかる。この目的を達するため、症例検討会、講演会を開催するとともに関連団体との交流を行う。会員は福井県内にて皮膚科診療に従事する日本皮膚科学会の会員およびこの会の目的に賛同する医師・医療従事者。年会費2,000円と決められました。平成16年から県立病院、日赤病院に加えて済生会病院での開催になりました。症例報告の後、保険関係の話や連絡事項の報告があります。会の始めに医薬品の説明会がある場合や、講師の先生を招聘して講演会を行うこともあります。会長職は病院の先生方は多忙であろうし、開業医が勤めるのがよいだろうという了解事項のもと、開業医で交代制にし、2年で交代しますが、会長職に先立って2年間副会長を勤めます。事務局は県立病院皮膚科、実務は県立、日赤、済生会が交代で引き受ける形式で行っています。18年からは9月の例会だ

けは北陸3県合同で開催されていた北陸地方会を兼ねるようになり、福井県分科会として行われることになりました。地方会ですのでこの会だけは大学皮膚科が担当し、症例検討会に加えて静岡がんセンター皮膚科部長清原祥夫先生をお招きして講演会も行われ、大学皮膚科に紹介された患者様のその後の経過、診断などが会員に報告されました。

各都道府県に皮膚科医会が設立されており、その中央に日本臨床皮膚科医会があります。その臨床皮膚科医会の指導のもと、11月12日を、「いい皮膚の日」として各都道府県単位で行事が繰り広げられています。福井県でも平成13年に皮膚の日の行事が初めて実施され、福井新聞の健康欄にお肌の健康学シリーズとして「顔、頭のスキンケア」、「皮膚のアレルギー疾患」、「皮膚腫瘍の良性、悪性」、「水虫の予防方法」の4回が掲載されました。平成17年度はFBC会館6階ホールで「美しい皮膚を保つために」の演題で講演会を行ない、その後に皮膚の無料健康相談を会員の諸先生が引き受けてくださいました。今年度は福井国際交流会館地下1階多目的ホールで、13時から福井大学皮膚科の熊切正信教授が「早めに皮膚癌に気づくために」の演題で講演されます。その後に無料皮膚病相談会を予定しています。どこでどのようなことを行ったか、参加人数、相談者の人数などを中央に報告する義務がありますので、集客に頭を悩ませます。この文章が掲載されるころには結果が出ていることと思いますが、さて、笑顔で終わらせることが出来たでしょうか。

参考文献：吉田正美 福井皮膚科医会の歴史、福井医科大学皮膚科同門会だより；越前だよりP12～16、第6号教室年報平成12年（2000年）